

2014年1月6日

2014年 新年あいさつ

事業基盤をさらに強化し、新たな発展を

NS ユナイテッド海運株式会社
代表取締役社長 小島 徹

皆さん、新年明けましておめでとうございます。

今年の年末年始の休みは例年よりも少し長かったので、旅行に出かけたり、家でゆっくり休んだり、充実した休暇を取られたことと思います。今日から仕事始めということで、私から皆さんにごあいさつさせていただきます。

外部環境は改善

振り返ってみますと、昨年 2013 年は、私どもを取り巻く環境が少し明るくなってきた年であったと思います。一昨年 12 月の総選挙の結果、民主党政権から自民政権に移り、いわゆるアベノミクス効果により、円高が是正され、株高となり、長年続いたデフレから脱却の兆しも見られるようになりました。世界的に見ても、米国の景気回復・拡大が確実なものとなり、欧州も落ち着きを取り戻しました。中国・ブラジル・インドなどの新興国は、一時の勢いこそ無くなりましたが、危機を迎えるといった事態にはなっておりません。たとえば中国の鉄鉱石や石炭の輸入量は、引き続き高い伸びを示しています。

台風や豪雨による自然災害、あるいは汚染水問題など暗いニュースもありましたが、2020 年東京でのオリンピック・パラリンピック開催決定などの明るいニュースも多く、総じて「前に向かって進み始めた」と言える年ではなかったかと思っています。

収益改善努力に感謝

こうした中で当社は、収益力回復に向けて最大限の努力をいたしました。財務的には、昨年 3 月末に高額用船契約のキャンセル、高価格船の減損処理を行い、180 億円以上の特別損失を計上いたしました。また、運航面では、安全・安定運航をベースに減速を最大限に行うなど、コスト削減に努めました。

その結果、上期連結決算は売上高 763 億円に対し 40 億円の経常利益となり、2013 年度通期見込みも売上高 1,540 億円、経常利益 72 億円を見込んでおります。また、過去 2 年間配当を行っていませんでしたが、今期は一株当たり 7 円の配当を予定しております。

収益が改善した理由は、行き過ぎた円高の是正、あるいはマーケットの改善といった外部環境での追い風や、財務リストラ効果もありますが、本日お集まりいただいている役職員の、あるいは船上で働いている海上スタッフの皆さんの、日頃の努力のたまものであります。改めて感謝するとともに、今後さらに収益を積み上げるべく、皆さんの力を結集していただきたいと期待しております。当面の目標は 3 月末の年度決算です。公表した数字を上回るべく、がんばりましょう。

さらなる飛躍を

さて、今年 2014 年はどういう年になるでしょうか。多くの方が予測するように、外部環境は昨

年に引き続き落ち着いた年になるのではないかと思います。もちろん、消費増税の影響をはじめ、読み切れないこと、思わぬことが起きるのは世の常ですし、海運マーケットも乱高下するでしょうが、全体的にはより前向きに物を考えられる年になるのではと思っています。

こうした中で、当社は昨年行った財務面でのリストラ、またNSユニテッドビジネス(株)ほかの業務システムの見直しにより、いっそう筋肉質になることができましたので、今年は事業基盤をさらに強化し、新たな発展を歩み始める年になれると考えています。

まず「事業基盤の強化」についてですが、みなさんご存じのように、合併3年となった昨年10月に当社は「グループ企業理念」を制定いたしました。経営理念としては、「信用・信頼」「安全運航・環境保全」「お客さまへの対応・自己変革」「人を育て活かす」の4つを掲げております。

どれもがとても大事なことですが、第一の「信用・信頼」の中で、「堅実な経営を実践する」とうたっております。堅実な経営を実践するためには、まず安定したビジネスを拡充していくことが肝要です。日ごろお付き合いのあるお客さまとの関係をより強化し、より長期のビジネス関係を築いていくことが大事です。昨年は、日本の鉄鋼会社・電力会社・エネルギー会社、あるいは南米の非鉄会社との原料や製品輸送における新規専航船契約や長期輸送契約の更改・増量ができました。大変良かったと評価しています。本年2月にはマリン関連業務の組織も変わりますが、営業・船舶管理一体となって、安全運航をベースとした顧客サービスに努め、昨年以上に成果を上げていただくことを期待しております。

「新たな発展」という点では、昨年の年頭あいさつを含め、これまで何度も申し上げてきましたが、東南アジアあるいはインドなど、今後人口が増え、中間層が増える地域でのビジネスを開拓していくことが課題です。現代は情報が瞬時に広がり共有される時代ですので、われわれの競合者を含むすべての企業・関係者が、東南アジア・インドに注目し、ビジネスを拡大しようとしています。

そうした中で、どのようにして当社のプレゼンスを高めていくかが課題です。どこまでリスクを取れるか、どうやってリスクをミニマイズできるか、海外駐在スタッフも合わせて、皆で情報を集め共有して、個々のビジネスを積み上げていくことによって、当社としての解が見つかるのだと考えています。もちろん日本の市場は大事であり、これからも当社のシェアを伸ばす余地はまだありますが、今後さらに東南アジアをはじめとする海外市場に目を向けていくように皆さんも日ごろから努力していただきたくお願いします。今年はずいぶん「新たな発展」に向けて一歩も二歩も歩みを進める年にしたいと、私は強く考えております。

明るい年に

会計年度という区切りで見ますと、2014年度から新しい中期経営計画を始めるべく、現在、事務局が取りまとめ中です。私としては、数値目標として3年という期間は大事ですが、より長い期間で会社が進むべき方向なり目標を示せるような計画にしたいと考えています。また計画を円滑に実行しモニターしていくためには、基幹システムの見直しなども行っていかなければならないと考えています。

この中期経営計画の基礎となるのは、先ほど触れた「グループ企業理念」です。4つの経営理念、8つの行動規範に従って、全社員・全グループ構成員が、生き活きと明るく目標に向かってがんばれるような年に2014年がなればよい、そうしたいというのが私の新年の思いです。ぜひ皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

以上が私からのごあいさつです。最後になりますが、今日も世界の各地で休みなく働いている船舶ならびに海上スタッフの安全と、社員の皆さまおよびご家族のご健勝・ご多幸を心から祈念いたします。